

共 同 参 画

"Kyodo-Sankaku"



"Kyodo-Sankaku"
Number 110
March-April 2018
Japan Cabinet Office

3・4

内 閣 府

Special Feature

特集／「“おとう飯”始めよう」

キャンペーン実施自治体からの報告



主な予定

Schedule

3月中下旬	第62回国連女性の地位委員会（CSW）（ニューヨーク）
4月1日～30日	AV出演強要・「JKビジネス」等被害防止月間
6月23日～29日	男女共同参画週間（主唱：男女共同参画推進本部）
6月24日	女子中高生向けシンポジウム「理系で広がる私の未来2018～進路で人生どう変わる？～」（東京都江東区）

御挨拶

Greeting

内閣府副大臣
田中 良生



Tanaka Ryosei

1月29日に内閣府副大臣を拝命し、男女共同参画・女性活躍担当となりました田中良生です。

安倍内閣では、女性活躍の旗を高く掲げ、成長戦略の一丁目一番地に位置付けてまいりました。少子化・人口減少という危機を迎える中で、社会・経済の多様性と活力を高める観点から、「女性の力」の発揮は我が国にとって大変重要な課題です。

私は起業経験者として、特に企業において女性の活躍を進めることの必要性を感じてきました。女性役員候補者の育成、指導的地位に占める女性の割合の拡大、女性活躍推進法に基づく女性活躍情報の「見える化」の促進、理工系女性人材の育成、女性の活躍との両輪とでもいうべき男性の意識や暮らし方の変革、女性の活躍の大前提となる女性に対するあらゆる暴力の根絶といった諸課題について、野田大臣のもと、山下政務官とも力を合わせながら取り組んでいきたいと思ひます。

皆様のご支援、ご協力をどうぞよろしくお願いいたします。

目次

Contents

特集

「“おとう飯”始めよう」キャンペーン 実施自治体からの報告

Page 02

行政施策トピックス1

「ダイバーシティ・マネジメントセミナー」を開催
～成長戦略としてのダイバーシティ～

Page 06

行政施策トピックス2

スポーツ界からASEANの女性が輝くためにできること

Page 08

行政施策トピックス3

平成29年度『家族の日フォーラム』開催報告

Page 10

行政施策トピックス4

男性の家事・育児応援フォーラム「これからの子育てと暮らし×デザイン」を開催

Page 11

連載

その1 女性活躍の視点からみた企業のあり方(11) 多様性が尊重される社会へ／
矢島 洋子 (三菱UFJリサーチ&コンサルティング(株) 共生社会室室長首席研究員)

Page 12

その2 地域における女性の活躍推進⑩ 女性の力で地域の課題を解決する

Page 13

取組事例ファイル (団体編)

「輝く女性の活躍を加速する男性リーダーの会」行動宣言賛同者の取組
植平 光彦 (株式会社かんぽ生命保険 取締役兼代表執行役社長)
木村 浩一郎 (PwC Japanグループ グループ代表)
斉之平 伸一 (三州製菓株式会社 代表取締役社長)
林田 英治 (JFEホールディングス株式会社 代表取締役社長)

Page 14

ニュース&インフォメーション

「仕事と生活の調和」推進サイトがレスポンス対応となります！ 他 Page 16

男女共同参画センターだより

茨城県女性プラザ男女共同参画支援室



「“おとう飯”始めよう」キャンペーン 実施自治体からの報告

内閣府男女共同参画局総務課

都道府県知事初のおとう飯サポーターが、社会の「空気」を変える！（三重県）

1. 都道府県知事初のおとう飯サポーター参加を発信

三重県では、女性の活躍や男性の家事・育児参画推進に向けて取り組みを進めており、その一環としておとう飯キャンペーンに賛同しました。

三重県知事が都道府県知事で初めておとう飯サポーターに参加したことについて、報道発表を行うとともに、県HP及びFacebookで発信しました。

また、県内各市町へおとう飯キャンペーンの活用について呼びかけしており、各地で取組の輪が広がっています。



女性の活躍推進三重県会議Facebookでの投稿

2. 本県のおとう飯キャンペーンに関連する取組

男性の育児参画促進を目的に進める「みえの育児男子プロジェクト」の中で「みえの育児男子親子キャンプ」を開催しました。

参加した父親等が、テント設営や夕食づくり等を通し、自然の中で子どもとじっくり向き合い、子育てに対してこれまで以上に前向きに考え、取り組むきっかけとなりました。



みえの育児男子親子キャンプの様子

また、味の素株式会社や県内量販店と連携して実施している、頑張る人を応援する「みえ・『勝ち飯®』プロジェクト」の一環で開催したトークショーにおいても、みえの国観光大使の浅尾美和さんに鈴木知事が自らの“おとう飯エピソード”を披露しました。

※「勝ち飯®」は味の素株式会社の登録商標です。



みえの国観光大使・浅尾美和さんとのトークショーの様子

鈴木英敬知事のメッセージ

女性の活躍や少子化対策の推進には「男性が変わる」必要があると考えており、自ら先頭に立って社会の「空気」を変えていくため、おとう飯サポーターに参加させていただきました。

私自身は5歳の息子と1歳の娘の2児の父で、正直料理は得意ではありませんが、朝食に息子が好きな魚を焼き、ごはん味噌汁を作り一緒に食べるなど、時間を見つけ積極的に取り組むようにしています。

先日、子どもにホットケーキを焼いたところ、お世辞だと思いますが、「秘密やけど、ママのよりパパの方がおいしい。」と言われ、嬉しくて調子に乗り、さらに頑張るようになりました。

家事や育児に積極的に参画すると子どもが喜ぶ顔をたくさん見ることができ、もっと子育てが楽しくなります。男性にはもっと育児に関わり、幸せを感じてもらいたいと思います。

今後も、おとう飯サポーターとして、自らの“おとう飯エピソード”も発信しながら、男性の家事・育児参画を後押ししていきたいと思います。



「知事とイクメンパパの料理教室～“おとう飯”始めようキャンペーン～コラボ企画」の開催について（山口県）

山口県では、育児を積極的に行う「イクメン」を応援し、父親の積極的な家事・育児への参加を促進するため、今年、明治150年という節目の年に当たり、「やまぐちイクメン維新」という取組を進めています。

また、ワーク・ライフ・バランスに対する取組では、村岡知事が九州の知事と共に、重さ7.3kgの「妊婦体験ジャケット」を着用し、洗濯や食器洗いなどの家事を自ら体験し、妊婦さんの大変さをユーチューブで情報発信することで、男性の家事・育児サポートの大切さを呼びかけています。

このように山口県では、「安心して子どもを産み、育てていくなら、やっぱり山口県だ」と思っていただけよう、子育てしやすい環境づくりを積極的に進めています。

知事は、このような環境を実現す

男性の家事・育児等に参画する社会の実現に向け、内閣府が昨年6月からスタートした、子育て世代の男性の料理への参画促進を目的とした「“おとう飯”始めよう」キャンペーンの取組について、ご賛同いただいている各自治体の取組を一部ご紹介します。

るためには、仕事と家庭生活を両立し、男性が積極的に家事・育児に参加することをより一層促進することが重要だという考えから、父親の家事・育児参加の気運をさらに盛り上げるため、この度「おとう飯」サポーターに参加することになりました。

そして、効果的なサポーター参加として考えついたのが、「知事とイクメンパパの料理教室」と内閣府「“おとう飯”始めようキャンペーン」とのコラボ企画でした。

参加募集をしたところ定員を上回る申込みがあり、知事家族の他、13世帯（計44名）の方が参加をされました。

11月3日（文化の日）に萩市で開催した料理教室のメニューは、「萩海産物をつかった時短パエリア」、「野菜たっぷりミネストローネ」、「ちりめんじゃこサラダ」の3品。山口県萩市は海の幸が豊富な地域なのですが、特にパエリアは、豊かな地元海産物を豊富に使ったメニューです。

パエリアという名前を聞いて、皆さんは、おとう飯としてはハードルが高いのではないと思われるかも知れませんが、フライパン一つで料理ができ、しかも加熱や蒸らし時間の間に、スープやサラダも調理できるという、おとう飯にぴったりのメニューだと言えます。



親子で料理中です

料理教室において、手際よく料理をする知事をはじめとした父親の姿に、子どもたちも感動しており、調理の終盤、フライパンのふたを開けて、とてもきれいな色のおいしそうなパエリアを見ると、子どもたちから歓声が上がっていました。

父親が作るおとう飯。そして、そのおとう飯を家族全員で食べる。この日のことは、それぞれの家族の大切な思い出として残っていくことでしょう。



パエリアと村岡知事



完成！ by 山口県PR本部長ちよる

県では、この「“おとう飯”始めようキャンペーン」を大きな契機として、今後、男性の家事参画を促進するための事業を展開しようと考えています。

事業では、男性の家事参画を促すため、暮らし方や意識改革を直接伝える啓発資料を作成し、若い世代の男女へ配布するなど、家庭の中から女性活躍支援を進めていきたいと考えています。

知事とイクメンパパの料理教室
参加者募集中
申込み締切り
10月2日
(月)
※必着

家庭でも簡単に作れるお父さんのための料理教室を開催します！
お父さんが作った料理を家族みんなで食べましょう！！
参加費 無料

○日時
平成29年11月3日（金・祝）11:00～13:00
○場所
萩随工高等学校（萩市平安町544）
○メニュー（予定）
萩海産物を使ったパエリア
○対象
山口県内在住で小学生のお子様をお持ちの父親
○募集人数
10家族程度

★お問い合せ・申込はこちら★
山口県健康福祉部
こども・子育て応援課 こども政策課
〒753-8501 山口市海町1-1
TEL:083-933-2754 FAX:083-933-2759
E-mail:ia13300@pref.yamaguchi.lg.jp
応募者多数の場合は抽選とさせていただきます。
当選者の発表は文書の発送をもって代えさせていただきます。

おとう飯
「おとう飯」始めようキャンペーン
子育て世代の男性の家事等（特に料理）への参画促進を目的としたキャンペーン

参加募集チラシ

「“おとう飯” 始めよう」キャンペーン 実施自治体からの報告

【サポーター参加とレシピ紹介】 （岡山県）

岡山県では11月を男女共同参画推進月間と定め、毎年、男女共同参画に関する記念講演や各種啓発活動などに重点的に取り組んでいます。

この月間に合わせた取組のひとつとして、平成29年11月、「やってみるのが一番！お父さん がんばって！家族の笑顔と『美味しい』の言葉が、きっと待っていますよ。」のメッセージとともに、知事が「おとう飯サポーター」になりました。

サポーター参加に合わせて、知事がおすすめする6つのレシピを掲載した「岡山県版おとう飯レシピ」を県ホームページで紹介しました。どれも家にある調味料で簡単にできるレシピです。



伊原木隆太 岡山県知事

サポーター参加及び岡山県版レシピの紹介は、地元紙をはじめとする複数の新聞社に取り上げられ、広くPRすることができました。

【知事テレビ出演！自ら料理し、男性の家事参加応援メッセージ発信】

また、NHK岡山放送局の夕方の

ニュース情報番組へ知事が出演し、岡山県版おとう飯レシピ「焼きうどん」をスタジオで知事が実際に作り、セットのちゃぶ台でキャスターの方に食べていただきました。



NHK岡山放送局での撮影風景

収録の現場では、塩田慎二アナウンサーにも材料を切る手伝いをしていただき、「焼きうどんなら、失敗なく簡単に作れますね」とその手軽さに太鼓判を押していただきました。

知事自らが「おとう飯」エプロンを付け、料理をする姿を通して“まずは作ってみましょう！”という男性の家事・育児等への参加を応援するメッセージを発信することができました。

【“おとう飯” 始めよう！ 県内拡散中】



ウィズセンター特設コーナー

県男女共同参画推進センター（ウィズセンター）では、男性向けの料

理や家事に関する図書の紹介（貸出も行っています）や県の取組を紹介する特設コーナーを設けています。

今年1月からは、おとう飯レシピの募集を開始しました。応募いただいたレシピは、県ホームページや県主催イベントなどで広く県民に紹介していく予定です。レシピ考案者本人のほか家族や友人の方でも応募可能とし、公表の際にはニックネームでの紹介も可能とするなど、料理にまつわるエピソードもそえて気軽に応募してもらえるよう工夫しました。

手軽でリーズナブル、かつ美味しいレシピの紹介を通して男性の家庭での活躍を後押しします。



「おとう飯」レシピ募集ちらし

【これからの展開】

地域での男女共同参画を推進する取組として「おとう飯レシピ」を活用した男性料理教室を県内の女性団体と連携して開催するなど、より県民に身近なかたちでの事業展開を検討しています。

引き続き、メディアなどに広く取り上げてもらえるよう広報を工夫しながら、取組を進めていきたいと考えています。

しずおか版おとう飯レシピ コンテスト（静岡市）



イシバシハザマと9人の精鋭たち

静岡市では、「女性の活躍したい希望がかなうまち」の実現を目指し、「しずおか女子きらっ☆プロジェクト」を実施しています。しかし、女性の活躍推進に向けた取組を進める一方、男性が家事・育児等に主体的に参画する動きはあまり進んでいない状況です。

静岡市の女性活躍を推進する官民連携会議「しずおか女子きらっ☆応援会議」では、女性の活躍のためには男性の暮らし方・意識の変革も重要であると考え、作業部会に具体的な事業のアイデア出しを求めました。

「イクボス交流会は？」「最新家電まつりなんてどうでしょう」「子どもが『パパかっこいい！』と思うようなイベントがいいね」など検討を重ねる中、時期を同じくして内閣府の「“おとう飯” 始めようキャンペーン」の通知が届き、この全国的な動きに先駆けたイベントにしようと、男性による簡単レシピコンテストの開催が決定しました。市内企業や市民の皆様に参加を呼びかけ、応募全24作品の中から書類選考により9作品が決勝進出。

決勝戦当日、会場（学校法人鈴木

学園）には80人を超える観覧希望者が応援に駆け付け、よしもと芸人・イシバシハザマも登場し、賑やかで楽しい雰囲気の中イベントが始まりました。

まずはおとう飯大使・石橋さんによる調理実演。『鶏もも肉はフォークで攻めろ！』『かぼちゃは先にレンジにかけるとラクに切れる』など、調理のコツを解説しながらあっという間に鶏もも肉のうま煮やかぼちゃの煮ものを作っていく石橋さん。

会場のあちこちから、「いい匂い！」「おいしそう！」と歓声があがります。



イシバシハザマ大活躍

そしていよいよ精鋭9人による決勝戦がスタート！ハザマさんが実況中継する中、「ナポリ飯（はん）」「男の簡単ツナパスタ」など、次々に各選手の料理が出来上がっていきます。石橋さん、鈴木学園の高野先生、応援会議作業部会の委員による厳正な審査の結果、最優秀賞「MVO（モースト・バリアス・おとう飯）」



MVOに輝いた竹澤さん

は竹澤昌利さん（37）の「キャベツ嫌いのこどもがうっかり食べちゃうキャベツ炒め」に決定！

お好み焼きをアレンジしたこの料理は、たっぷりかかったかつお節のおかげで下のキャベツがすっかり隠れて見えないほど。野菜嫌いの長男・匠君（3歳）も、キャベツに気付かず喜んで食べるそう。コンテストの様子は地元TV局の情報番組で生中継されたほか、新聞でも大きく紹介され、広い周知に繋げることができました。

また、しずおか版おとう飯を一過性のイベントで終わらせないよう、コンテストの優秀作品を2月下旬から3月下旬まで静岡市役所食堂「レストラン駿河」で期間限定特別メニューとして提供し、「しずおか版おとう飯レシピ集」を併せて配布することでご家庭での料理チャレンジを呼びかけているほか、生涯学習施設や民間企業との連携も模索しているところです。

皆さんも是非、「しずおか版おとう飯レシピ」にチャレンジしてください。

静岡市は、全国の男性の料理参画を応援しています！

しずおか版おとう飯レシピ 検索



決勝戦はTVで生中継



「ダイバーシティ・マネジメントセミナー」を開催 ～成長戦略としてのダイバーシティ～

内閣府男女共同参画局推進課

2017年12月18日(月)に経団連会館(東京都千代田区)、2018年1月30日にリーガロイヤルホテル大阪(大阪府大阪市)において、一般社団法人日本経済団体連合会(以下、「経団連」という。)及び内閣府男女共同参画局の共催で、企業の経営者及び管理職を対象としたダイバーシティ・マネジメントセミナーを開催しました。2013年度から開始した同セミナーは、今年度で5年目を迎え、企業の管理職やダイバーシティ推進担当者等、東京会場は約180名、大阪会場は約200名が参加しました。

■セミナー概要

Society5.0の到来や人口減少等、これから大きな変化を迎える日本社会において、企業が持続的成長を実現するためには、女性、若者、シニア、外国人を含めた多様な人材の能力を最大限引き出し、社会全体として生産性向上を目指していくことが不可欠です。こうした中で、ダイバーシティの実現に向けた取り組みは、この数年、女性活躍推進をはじめ確実に進んでおり、その成果が形となって現われつつあります。

本セミナーでは、ダイバーシティ推進による成果・ビジネスインパクトや、更なる発展に向けた今後の課題や展望についての基調講演のほか、男性等を巻き込んだ意識改革といったこれまでの取り組みや、具体的な成果について、先進的な取組を進める企業等からの事例紹介を通じて理解を深めました。

■基調講演(東京会場)

東京会場の基調講演は、「ダイバーシ

ティ推進の成果と今後の展望」というテーマで、経団連の柄澤康喜女性の活躍推進委員長(三井住友海上火災保険株式会社取締役会長 会長執行役員)にお話いただきました。



柄澤氏による基調講演(東京会場)

柄澤氏は、「ダイバーシティ推進を確実なものにする重要なポイントは3つある。第1は、規制改革や社内制度改革等によりフレキシビリティを高めていくこと。第2に、社内外の開示を進め、透明性を高めること。第3はイノベーション。この3つの視点に共通するのは、かつて日本経済が右肩上がりだった時代に固定化した制度を変えていくことである。取り組むべき課題は多いが、活力ある未来に向け、企業・社会には真摯で着実な姿勢が問われている。」という力強いメッセージを会場の参加者へ贈りました。

■基調講演(大阪会場)

大阪会場の基調講演は、「更なる発展のために日本が目指す真のダイバーシティとは～求められるマインドセットチェンジ～」というテーマで、西浦みどり氏(お茶の水女子大学客員教授、理化学研究所ダイバーシティ推進室ダイバーシ

ィ・デザイナー）にお話しいただきました。

西浦氏は、豊富な国際経験を活かした視点から、「ワーク・ライフ・バランスも難しく考える必要はない。欧米では、プライベートライフを重視し、仕事とのバランスを取り生産性を上げようという発想が背景にあるが、日本では長時間労働に象徴される働き過ぎの是正の観点から来ている。遊びのなかから新たな発想が生まれ、仕事につながるものであり、日本人には、自分の癒やしや趣味をみつけて、そのための時間をつくることが求められる。」と語られました。そして、「男・女・LGBT、すべてにおいて、お互いを尊重し、切磋琢磨し、健全な競争力で勝負し得るオープンな社会を醸成していくことが重要である。」とお話しされ、会場の参加者を奮い立たせました。



西浦氏による基調講演（大阪会場）

■事例紹介

基調講演後、「見えてきたダイバーシティによる成果」をテーマに、各社施策のこれまでの具体的な成果や経営上のインパクト、現在進行中の取り組みや課題等、企業等のリーダーによる事例紹介を行いました。

東京会場では、株式会社LIXIL日本人事総務本部人事部長の中垣淳氏、日本航空株式会社執行役員人財本部長の小田卓也氏、株式会社ダッドウェイ取締役副社長の白鳥由紀子氏による事例紹介が行われ、参加者からは様々な質問が寄せられました。



事例紹介（東京会場）

大阪会場では、パナソニック株式会社人事労政部ダイバーシティ・組織開発推進室主幹の讃井由香氏、伊藤忠商事株式会社人事・総務部長代行（兼）採用・人材マネジメント室長の澤瀉久修氏、医療法人寿芳会芳野病院事務部長の廣底幹雄氏による事例紹介が行われ、会場の参加者からは「自社でも取組を進めたい」との声が多く集まり、両会場とも熱気に包まれ、セミナーは終了しました。



事例紹介（大阪会場）



スポーツ界からASEANの女性が輝くためにできること

スポーツ庁国際課

平成29年10月11日にミャンマーのネピドーにて初めての日ASEANスポーツ大臣会合が開催されました。本会合は、2013年日ASEAN友好協力40周年記念として開催された特別首脳会議の成果（＝日ASEAN友好協力に関するビジョン・ステートメント）を踏まえて、2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会のホスト国として、スポーツ・フォー・トゥモロー等を通じたオリンピック・パラリンピックムーブメントを広める観点から、スポーツ分野における我が国とASEANとの関係強化を図ることを目的として設置されることとなったものです。

会合においては、日本側からスポーツ分野における日本とASEAN間の協力について、ASEANスポーツ5カ年計画を踏まえ、優先分野を特定する「政策ガイドライン」の策定を提案しました。この「政策ガイドライン」に沿って、「体育教員・

指導者の育成」、「女性のスポーツ実施率の向上」、「障がい者スポーツの発展」、「アンチ・ドーピングに関する能力開発」の4つの領域に関する協働作業プログラムを進めることが合意されました（※1）。

本会合は同年7月にロシアのカザンで開催されたユネスコ主催の第6回スポーツ・体育担当大臣会合（通称：MINEPS VI）のフォローアップの役割を果たしており、ASEAN事務局により提案された「ASEANにおける女性のスポーツ実施率向上に関するコンセプトノート」（※2）は、MINEPS VIにおいて採択された「カザン行動計画」のアクション4にあたる「女性・スポーツ・体育・身体活動のためのモニタリング機関の設置に関する実現の可能性の研究の実施」も包括する形となっています。

「ASEANにおける女性のスポーツ実施率向上に関するコンセプトノート」で

※1 「日ASEANスポーツ大臣会合の成果について」

日ASEANスポーツ大臣会合の成果について

2017年10月11日にミャンマー・ネピドーにおいて開催された第1回日ASEANスポーツ大臣会合で、日本とASEAN諸国は以下の4つの分野において協力することに合意。

1. 体育・指導者の育成

協力手法の例

- ・指導マニュアルの作成
- ・指導者向けトレーニングセミナーの開催



2. 女性のスポーツ実施率の向上

協力手法の例

- ・女性リーダー研修
- ・ジェンダー平等と女性のエンパワメントに関する地域レベルのスポーツイベントの開催
- ・女性アスリートダイアリーの普及



3. 障がい者スポーツの発展

協力手法の例

- ・パラスポーツマネジメント研修
- ・スポーツを通じた共生社会実現に貢献するスポーツイベントの開催
- ・「I'm possible」の普及



4. アンチ・ドーピングに関する能力開発

協力手法の例

- ・アンチ・ドーピングに関する能力強化
- ・スポーツの価値に関する教育パッケージの紹介



※国連が定める17個の持続可能な開発目標（SDGs）のうち貢献が期待しうる目標を示している



共同議長を務めた水落文部科学副大臣とミン・トゥエ保健スポーツ大臣



会合の様子

は、ASEAN地域の女性にとってのスポーツの重要性の認識向上や、ASEANの社会文化的な課題の特定化、また、ラグビーワールドカップ2019及び2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会のムーブメントの促進を目的としています。具体的な活動としては、スポーツ界における女性のロールモデルの増加、女性のスポーツ実施に対するモチベーションの向上、女性が活用しやすい施設やインフラの整備、女性のスポーツ指導者、審判員、マネジメントスタッフの育成等が含まれています。

平成29年11月には、ユネスコスポーツ・体育担当大臣会合（MINEPS）の中に設けられている政府間委員会（通称：CIGEPS）のメンバーに日本政府が正式に当選いたしました。今後ますます、国際的なスポーツ政策の推進において、アジア地域における日本のリーダーシップ

の発揮が重要となってくる中、特に「カザン行動計画」のアクション4にあたる「女性・スポーツ・体育・身体活動のためのモニタリング機関の設置に関する実現の可能性の研究の実施」の推進をユネスコ事務局から期待されているところです。

また、2018年はスポーツ界においてASEAN地域が注目を集める年でもあります。4月には、スポーツの国際会議の中で最も大きな会議の一つであるスポーツアコードコンベンションがタイで開催される他、8月には、アジア競技大会がジャカルタで開催されます。こういった国際競技大会や国際会議をとらえ、ASEAN各国と連携し、ASEAN地域から女性スポーツの国際的なムーブメントを共に盛り上げ、「スポーツ界におけるジェンダーの平等の実現」及び「スポーツを通じたジェンダー平等社会への貢献」に力をいれていきたいと思っています。

※2「ASEANにおける女性のスポーツ実施率向上に関するコンセプトノート」

日ASEANスポーツ大臣会合 ASEANにおける女性のスポーツ実施率向上に関するコンセプトノート

日ASEANスポーツ大臣会合

2013年日ASEAN友好協力40周年記念として開催された特別首脳会議の成果（日ASEAN友好協力に関するビジョン・ステートメント）を踏まえてスポーツ分野における日本とASEAN諸国との関係強化を図ることを目的として設置。

2017年10月に第1回「日ASEANスポーツ大臣会合」が開催され、ホスト国であるミャンマー政府と日本政府が共同議長国となった。本会合の成果文書としての「共同声明」において、ASEAN事務局から提案された「ASEANにおける女性のスポーツ実施率向上に関するコンセプトノート」も集約された。尚、本会合はMINEPS VIの地域レベルでのフォローアップとしての役割も果たしている。

ASEANにおける女性のスポーツ実施率向上に関するコンセプトノート概要

背景

- ・ MINEPS VIのカザン行動計画における女性スポーツに関する記述の明記。
- ・ 日本の主要スポーツ団体による「ブライトン・プラス・ヘルシンキ2014宣言」への署名
- ・ ラグビーワールドカップ2019及び2020年東京オリパラムーブメントの促進。
- ・ 多様な関係団体（国際連合やUN Women等）と連携した、ジェンダー平等社会への貢献

目的

- a. スポーツの重要性に関する認識の向上
- b. ASEAN地域の女性の社会文化的な解釈や困難の特定化
- c. 地域レベルの女性スポーツ実施率向上やラグビーワールドカップ2019及び2020年東京オリパラムーブメントの促進。
- d. ASEAN地域におけるスポーツ界のジェンダー平等の実現及びスポーツを通じたジェンダー平等社会への貢献

活動

- ・ 女性アスリートの能力発揮やロールモデルとしての可視化（地域大会等を通じて）
- ・ 女性のスポーツ実施に対するモチベーションの向上
- ・ 女性のスポーツ参加促進のための、地域レベルのニーズの把握及び健康に関する課題の認識
- ・ 女性にとって安全な施設やインフラの整備
- ・ 地域レベルの競技大会の開催
- ・ 女性指導者、審判、マネジメントスタッフの育成



平成29年度『家族の日 フォーラム』開催報告

内閣府子ども・子育て本部

内閣府・福井県主催「家族の日フォーラム」

内閣府では、11月の第3日曜日を「家族の日」、その前後各1週間を「家族の週間」と定め、子育てを支える家族や地域の大切さ等についての理解促進を図っています。本年度は11月19日に福井県福井市アオッサにおいて、家族の日フォーラムを開催しました。

オープニング

開会にあたり「2018福井国体・障スポPRキャラバン隊」の皆さんによる「国体はびねすダンス」が行われました。

次に、主催者挨拶として、松山政司少子化対策担当大臣の挨拶を、嶋田裕光内閣府大臣官房少子高齢社会対策等企画調整室長より代読し、続いて、藤田穰福井県副知事より挨拶がありました。

基調講演

基調講演では、大阪大学人間科学研究科未来共創センター招へい教授の石蔵文信先生より「共働き夫婦」と「祖父母世代」をテーマに『共働きでも子育てしやすい！～育ジイからのメッセージ～』と題してご講演いただきました。

石蔵家は先生ご自身を含め、ご家族の皆様が医師として活躍されています。職業柄、多忙な生活の中で、先生が家事・育児の主担当となることが家族にとって一番良いと判断されて大学を退職、その後は「育ジイ」として家事・育児のフォローをされています。そのご経験から、三世同居で祖父母世代が「孫育て」に参加するコツは、子や孫の面倒で負担が重くなりがちな祖母（妻）の疲労を軽減するために、祖父（夫）がまず自立し、率先して家事や育児を行うことが大切だとお話しされました。

トークショー

続いて、俳優の金子貴俊氏による『家族と楽しむ！たかパパごはん』と題して

トークショーを行いました。

一男一女の父親である金子氏は子供の誕生をきっかけにフードアナリスト資格3級を取得。ご夫婦での合作料理や、金子氏のオリジナル料理を囲んだ家族団らんのお話を伺いました。

会場の男性に向けては、「何でもいいので自分の得意なことを見つけ、出来ることからやってみるのが、育児参加のコツ。また、子供と一対一で主体的に関わると、父親としての自信になり、楽しくなるはず」と、得意な料理を通して家族との絆を深めている金子氏らしい応援のメッセージを送りました。

パネルディスカッション

続いて、(株)ベネッセコーポレーション たまひよ・サンキュ！総編集長の伊久美亜紀氏の司会にて、『家族全員を幸せにする子育てとは？～パパが家族のためにできること～』と題し、石蔵文信先生と金子貴俊氏、及び、地元代表として「父親子育て応援団おっとふぁーざー」団長で現在、第三子の育児休業を取得中の館直宏氏、子育てと仕事の両立をかなえているワーキングマザーの(株)木工房蔵 谷川智恵氏によるパネルディスカッションを行いました。

共働き夫婦での家事・育児分担のコツや、父親が家事・育児をする時の課題や解決方法について、それぞれの立場や過去の経験から意見交換することによって、家族が気持ちよく助け合うためのヒントや、上手なコミュニケーションの取り方が見えてきました。

最後は伊久美氏から「基本的なことですが、一緒に居る家族が笑顔でいることが、何よりも幸せなんですね。そのために家族一人ひとりが、自分ができることをしていきましょう」と会場に呼びかけて、満場の拍手とともに締めくくりました。



2018福井国体・障スポPRキャラバン隊の皆さんによる「国体はびねすダンス」



主催者挨拶代読



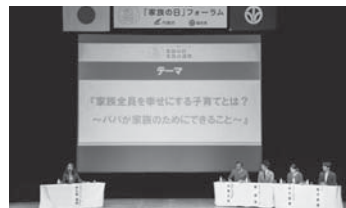
福井県副知事挨拶



大阪大学人間科学研究科未来共創センター招へい教授 石蔵文信先生による基調講演



俳優の金子貴俊氏によるトークショー



パネルディスカッションの様子



パネルディスカッション司会とパネリストの皆さん



男性の家事・育児応援フォーラム

「これからの子育てと暮らし×デザイン」を開催

内閣府(少子化対策担当、男女共同参画局)

厚生労働省、特定非営利活動法人キッズデザイン協議会

2月21日、赤坂インターシティコンファレンス「the AIR」(東京都港区)において、内閣府(少子化対策担当、男女共同参画局)、厚生労働省及び特定非営利活動法人キッズデザイン協議会主催、全国知事会、(公社)経済同友会、日本商工会議所及び(公社)日本青年会議所の後援により、「これからの子育てと暮らし×デザイン」と題した男性の家事・育児応援フォーラムを開催しました。

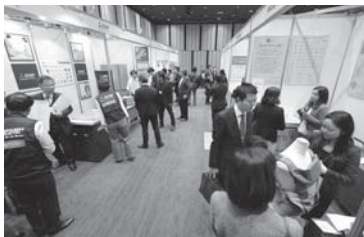
本フォーラムは、内閣府、厚生労働省及びキッズデザイン協議会が連携し、男性の家事・育児を支援し、男性の家事・育児等への参画のポジティブなイメージを国民と共有するとともに、子育て家庭の周囲や支援団体、地方自治体や企業等に対して、社会全体で子育てしていく意識の醸成を図り、「安心して子供を産み育てることができる社会の実現」への国民の理解を推進することを目的としています。

フォーラムでは、主催者挨拶に続き、基調講演とパネルディスカッション及びショートプレゼンを実施しました。



田中内閣府副大臣による主催者挨拶

また、民間企業による男性の家事・育児への参画を楽しくするデザインや、女性の家事・育児においても利便性が図られたデザインの紹介、内閣府や厚生労働省の取組を紹介するブース出展も行われました。



ブース展示

さらに、当日は、厚生労働省主催の「企業・地域におけるイクメン・イクボス育成セミナー」が、高村静氏(成城大学キャリアセンター特別任用教授)を講師に迎え開催されました。

●基調講演

『『安心して子供を生み育てることができる社会』作りにおける企業の役割と新市場創造』をテーマに、水越康介氏(首都大学東京大学院ビジネススクール准教授)から基調講演が行われました。



水越康介氏による基調講演

●パネルディスカッション

男性の家事・育児への参画を多角的に捉え、その中で、デザインができることや将来の男性の家事・育児への参画に対する展望などについて討論をいただきました。

ファシリテーター：

寛裕介氏(issue+design代表)

パネリスト：

是枝俊吾氏(大和総研金融調査部研究員)

橋田規子氏(芝浦工業大学デザイン工学部教授)、

羽生祥子氏(日経「DUAL」編集長)



パネルディスカッション

●ショートプレゼン①

男性のライフスタイル視点での「オトコの料理、“作る”から“片付け”までをカシコク・カンタンに」をテーマに、三菱電機株式会社の調理家電を使い、“おとう飯大使”の石橋尊久さんのお笑いトークを交えた「おとう飯」の調理の実演がなされ、大変好評を博していました。



「おとう飯」の実演

●ショートプレゼン②

「早く帰ろう！をつくる家づくり」をテーマに、積水ハウスの志賀剛氏からトモイエなど、夫婦や子育ての時間をつくるライフスタイルのデザインに向けた住宅メーカーの様々な取組や家事シェア研究家の三木智有氏から子育て家庭のモヨウ替えの事例やパパが家事育児を楽しむための方法などについてお話をいただきました。



「早く帰ろう！をつくる家づくり」

女性活躍の視点からみた企業のあり方(1) 多様性が尊重される社会へ

三菱UFJリサーチ&コンサルティング(株) 共生社会室室長主席研究員 矢島 洋子

『anone』というドラマに左利きの男の子が登場します。彼は、左手でそれは見事な猫の絵を描きますが、左手は「使ったらダメな方の手」だと言い、描くところを見せようとしません。なんとなく「みんながダメだという」ので、なんでも右手でする努力をされていて、特に困ってはいないと話し、右手で描く猫の絵もそれなりに上手なのです。彼は、「左利きならでは」の絵を描く訳ではありません。一番能力を発揮できる状態で描いた絵が素晴らしいのです。そして、彼が多数派の右利きに合わせ、左手を封じていることは、彼の不利益だけでなく、その絵を見ることのできない私たちの不利益でもあります。左利きは、なぜ矯正されてきたのでしょうか。子どもの世界では、マイノリティであることでからかわれる、という問題もあるでしょう。大人の世界の論理でいえば、文房具や様々な生活環境において、マジョリティに合わせた仕様に揃える方が効率がよい、ということになります。

企業においても、多様な人材を受け入れる、という時に、環境整備やワークルールにおいて、これまでの一律のあり方から変えていくコストがかかります。しかし、そのことによって、個々の社員が一番自分の能力を発揮できる状態で働けるということが、企業や社会に豊かさをもたらすのです。女性というなら、女性らしい視点や女性ならではの感性で仕事をすることを求められるのではなく、従来の男性中心で組み立てられていたワークルールや風土に無理に合わせずに済むことで、一番その人なりの能力発揮ができることに意味があります。

私の好きな、創業期の当社幹部社員の

考え方があります。「結局、人は好きなことでしか本当にはがんばれない」というものです。だから、個々の社員が好きなことで自律的にキャリア形成できる自由な社風、社員に裁量を認める制度を作ろう、という話につながります。企業が求めるのは、社員が好きに働くことではありません。求めるのは、社員が能力を発揮し、仕事を通じて成長し、さらに組織に貢献してくれることです。そのために、組織はどうあるべきなのか。

女性活躍にしても、働き方改革にしても、政府や世間の風潮に合わせて形式的に取組めばよい、短期的に管理職比率や労働時間などの数値が改善すればよい、と考えている経営者は、ダイバーシティがもたらす本当の価値に気付いていないのかもしれない。それなりに上手い猫の絵と、素晴らしい猫の絵の違いがわからないといっても良いかもしれません。

多様な人を受け入れ、それぞれに能力発揮ができる環境を作るために、既存の組織のあり方をどう変えるべきかを本気で考えている経営者は、まだ多くはないようです。そして、そういう人は、もしかしたら、家で専業主婦として、素晴らしい仕事ぶりを発揮している妻の活躍にも気づいていないのかもしれない。女性活躍は、企業で働く女性たちのためだけのものではありません。女性たちの間でも、就業している・していない、子どもがいる・いないで軋轢が生じるのは、どちらの選択をしても「生きづらさ」を感じずに済む社会になっていないからでしょう。企業におけるダイバーシティ推進は、多様な生き方が尊重される社会づくりへとつながっていくことが期待されます。



やじま・ようこ／三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社共生社会室室長 主席研究員。中央大学大学院戦略経営研究科客員教授。1989年(株)三和総合研究所(現MURC)入社。2004年～2007年 内閣府男女共同参画局男女共同参画分析官。男女共同参画、少子高齢化対策の視点から、ワーク・ライフ・バランスやダイバーシティ関連の調査研究・コンサルティングに取り組んでいる。著作に、『ダイバーシティ経営と人材活用』東京大学出版会(共著)等。

女性の力で地域の課題を解決する 内閣府男女共同参画局総務課

今回は、平成28年度「地域における女性活躍推進モデル事業」から3事業を紹介します。

○子育ても仕事も大切にしたいから 園活ナビゲーター事業（合同会社 ままのえん）

合同会社ままのえんは、埼玉県さいたま市に拠点を置き「子育てしながら、自分そだて」を理念に、母親たちがスキルや能力を活かすための情報・場・サービスを提供するなど、様々な取組を行っている法人です。同社では、子育て中の女性の活躍に必要不可欠な子育て支援サービス、保育園等の子どもの預け先に関する総合的な情報を提供する事業を実施しました。具体的には、公共民間関係なく、さいたま市内の子どもの預け先に関する情報を集約したデータベースの作成、セミナーや個別相談を通じた情報提供を行うとともに、子育て中の女性が就労する企業に対して、セミナーや復職のための個別フォローアップを実施しました。事業の実施により、平成29年4月以降に保育園入園を希望する28名のうち、12名の入園が確定しました。

○子育ても仕事も大切にしたいから 園活ナビゲーター事業



セミナーのようす

○男女共同参画の視点からの地域防災を成り立たせるための女性防災リーダー育成事業



講座のようす

○職場と家庭、両輪での環境づくりから始める岸和田男女キラクラブプロジェクト～



イクボスセミナー

ていますが、その中核たる自治会等には女性の参画が少なく、女性の視点が生かせない状況であるにとらえ、女性防災リーダーの育成のため、市内737の自治会を対象とした女性に対する意識・実態に関するアンケート調査や、30団体を対象とした訪問調査を実施しました。また、その中から参加者を募り、ワークショップ中心の能動的な講座である5回連続の防災リーダー養成講座を実施しました。この結果、女性副会長が就任する自治会が生まれるなど、女性の視点を生かすための体制づくりが促進されました。

○職場と家庭、両輪での環境づくりから始める岸和田男女キラクラブプロジェクト～（NPO 法人ファザーリング・ジャパン関西）

特定非営利活動法人ファザーリング・ジャパン関西は、父親の子育て支援、育児参画の推進に向けた様々な活動を行っている法人です。同法人では、女性の活躍には、男性の家庭進出や、職場環境をマネジメントし、自らも人生を充実させ、かつ業績を上げる上司（イクボス）の推進等が必要であると考え、大阪府岸和田市において、地域企業等にイクボスセミナーを実施しました。また、男性が家事や子育てにも取り組み、活躍することの重要性を次世代へ伝えるため、パパティーチャー講座を実施しました。これらを実施した結果、市長をはじめ46団体がイクボス宣言がなされました。また、パパティーチャー講座では21名の男性が参加し、高校生に対して自身の子育ての経験や働き方について交流する機会を作り、若い世代に対して、意識の変革を促しました。

○男女共同参画の視点からの地域防災を成り立たせるための女性防災リーダー育成事業（特定非営利活動法人 浜松男女共同参画推進協会）

特定非営利活動法人浜松男女共同参画推進協会は、浜松市男女共同参画・文化芸術活動推進センター（あいホール）の管理運営事業を行い、男女共同参画推進事業等、様々な事業を行う法人です。静岡県浜松市の防災計画では、発災時、住民に対して避難所の自主運営が求められ

「輝く女性の活躍を加速する男性リーダーの会」行動宣言賛同者の取組

平成26年に「輝く女性の活躍を加速する男性リーダーの会」行動宣言が公表され、現在160名を超える男性リーダーが本宣言に賛同しています。今月は4名の賛同者の取組を紹介します。

社員一人ひとりの「夢だらけ」な人生を目指して

かんぽ生命では、経営方針の一つに「社員一人ひとりが成長でき、明るく生き生きと活躍できる環境をつくります。」と掲げています。

この方針の実現のためには、社員一人ひとりが、ワークとライフの双方で成長することを通じて自己実現を図り、当社の社員であることに誇りを感じ、働きがい・やりがいを高めていくための取組、即ち「働き方改革」が必要だと考えています。

その中の取組の一つである「女性活躍の推進」については、育児休業、育児部分休業、介護休業、配偶者出産休暇等、充実した制度の下、それらを積極的に利用していただくための意識付けを行っています。この取組は、育児・介護等、時間制約のある社員でも十分に能力を発揮

していただくために必要不可欠なものであると考えています。

また、女性社員に対し、キャリア形成の機会を設けるために、30代前半からキャリア形成を主体的に考えさせる「キャリアデザインセミナー」、マネジメントスキル等の付与を目的とした「次世代リーダー研修」、管理者登用後においても、悩みや不安を払拭するための「メンタリング」等、計画的な育成を行っています。

今後とも社員一人ひとりが多様な能力を発揮することで、個人と組織双方の成長につながることを目指して取組を加速し、企業スローガンである社員の「夢だらけ」な人生をサポートしてまいります。



植平 光彦
株式会社かんぽ生命保険
取締役兼代表執行役社長



「次世代リーダー研修」の様子



ロールモデルとなる女性社員による講演

ジェンダー平等という

世界の重要な問題の解決に取り組む

PwCは「社会における信頼を構築し、重要な課題を解決する」ことを存在意義としています。急速に変化する社会情勢の中で、多様なクライアントのニーズを的確に捉え、複雑化する重要な課題を解決していかなくてはなりません。そのためには、一人ひとりが自分らしく、能力を最大限に発揮できるインクルーシブな文化の醸成が重要だと考えています。

PwC Japanグループ（PwC Japan）ではトップマネジメントが定期的に集まり、ダイバーシティ&インクルージョン（D&I）について議論し、必要なアクションの決定や進捗のモニタリングをしています。特に、在籍職員の3割以上を占める女性の活躍推進は力を入れており、女性リーダーパイプライン強化の為に「スポンサーシップ制度」、「若手女性向

け研修」等を実施しています。また、D&Iの様々なテーマについて学び、1人ひとりの行動を促すことを目的とした『Inclusion Café』を毎月開催しています。

この他、D&Iを社外にも広めていく活動として注力しているのが、国連機関のUN Womenが提唱する、ジェンダー平等の実現に向けた世界規模の活動である『HeForShe』の推進です。PwCは推進企業として選出され、賛同しています。社内イベントや社外セミナー等を開催する他、特設ウェブサイト※を開設し、その中でアンコンシャスバイアスのeラーニング研修を提供しています。

一人ひとりが輝ける環境を整備し、クライアントや社会の重要な課題解決に貢献していきます。

※特設ウェブサイト：

<https://heforshe.pwc.com/groups/japan>



木村 浩一郎
PwC Japanグループ
グループ代表



PwCで開設した『HeForShe特設サイト』で提供するアンコンシャスバイアスE-Learning研修



『Inclusion Café』にて、自分の取るべきアクションを掲げる参加者達



斉之平 伸一
三州製菓株式会社
代表取締役社長



全員女性を配置した商品企画室の
打合せの様子



店舗の商品レイアウト等を助言する
女性営業社員

支援型職場風土の醸成を通じての 女性活躍推進

三州製菓では、女性の能力を引出し活かすことが会社の発展に寄与すると考え、ダイバーシティ経営を実践しています。

ダイバーシティ経営の「制度」をつくっても活用されないこともあることから、当社では、支援型職場風土の醸成を推進しています。その為に「一人三役」「一善活動」等を行い、助け合いとお互い様の役立ちあう職場風土をつくって参りました。「一人三役」では自分の仕事以外に2つ以上のスキルを習得し、周囲の急な休みにも対応できるようにして、育児や介護中の従業員が安心して勤務を継続できるようにしています。

両立支援では「短時間勤務」「フレックス」「正社員登用」「ジョブ・リターン」等の制度拡充や「女性用機械の開

発」など働き方の選択肢を増やし多様な働き方が出来る環境を整備しています。また、「ノー残業デー」「残業削減」「有休消化100%」を奨励し、従業員のワーク・ライフ・バランスを支援しています。

女性活躍を推進した結果、女性の従業員比率が70%以上となっています。そして、女性役員（比率50%）と女性管理職（25%）が経営会議に参画しています。また、全員女性の企画部門では、米菓製造の枠を超えた新しい発想で、当社売上全体の15%を占める「パスタ・スナック」というヒット商品を生み出しました。

今後の目標は、2020年までに女性管理職比率を35%にすることと、女性の更なる職域の拡大を目指して参ります。



林田 英治
JFEホールディングス株式会社
代表取締役社長



横浜の企業内保育所



製造現場で活躍する女性従業員

経営の重要課題としての ダイバーシティ推進

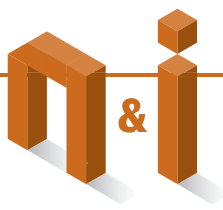
JFEグループは鉄鋼、エンジニアリング、商社の3つの事業を中心とした企業グループです。当社グループでは、すべての人材がその能力を最大限発揮できる環境を整えるべく、2015年4月に「JFEグループ人材マネジメント基本方針」を制定し、ダイバーシティの推進を経営の重要課題の一つと位置付け、女性の活躍を推進する様々な施策を展開しています。

施策を着実に実行するため、各事業会社にはダイバーシティ推進室を設置し、同室を中心に階層別研修や女性従業員同士の交流会などの啓発活動を行っています。製鉄所の製造現場でも女性の採用を積極的に推進し、設備や作業補助具の改善など作業負荷軽減の取組を進めてきた結果、高齢者をはじめ、男性従業員にとっても作業効率の向上に寄与するなどの

成果も出始めています。また、子育て世代の活躍を支援するために、両立支援制度の充実に加えて、企業内保育所の整備も進めています。女性従業員の管理職登用に関しては、JFEグループで2020年に女性管理職の人数を2014年度比で3倍とする目標を設定しています。

さらに、女性の活躍を推進する上では働き方の抜本的な見直しも不可欠です。現在、JFEグループでは、高い生産性で新たな価値を創造しながら、従業員一人ひとりが仕事に誇りと働きがいを感じられる働き方改革を進めています。在宅勤務制度、定時退社日や有給休暇取得奨励などの施策を充実させるとともに、システム化の推進やICTの活用を中心とした業務改革も進めています。

今後も、女性の更なる活躍を推進するため、取組を継続的に実行していきます。



[News & Information]

1 News

内閣府

「仕事と生活の調和」推進サイトがレスポンス対応となります！



内閣府「仕事と生活の調和」推進サイトに、画面サイズに応じてレイアウトを最適化する「レスポンスWebデザイン」を導入します。3月15日から、一部のページを除き、原則としてレスポンス対応となりますので、是非御覧ください。

<http://www.cao.go.jp/wlb/index.html>

スマートフォン・タブレット端末から御覧になると、自動的にレイアウトの切り替えが行われます。自動判別のため、一部の端末では、スマートフォン端末でタブレットレイアウトになる、タブレット端末でPCレイアウトになる等の場合もありますので、御了承ください。

※レスポンスWebデザインについての推奨閲覧環境は、以下を御覧ください。

<http://www.cao.go.jp/notice/recommend.html>

2 News

国立女性教育会館（NWEC）

「NWECグローバルセミナー」開催報告



12月7日に「女性の活躍促進に向けた取組み－ドイツの経験から考える」をテーマとして開催し、80名を超える参加がありました。

ドイツ女性協議会国際ジェンダー平等政策顧問のウルリケ・ヘルワース氏が「決着のつかない問題：21世紀におけるジェンダー平等－ドイツの事例」と題した基調講演を行い、ドイツ国内の労働分野での男女間格差や女性のリーダーシップを取り巻く課題について報告しました。

後半のパネルディスカッションでは、立命館大学法学部教授の大西洋世氏をコーディネーターに迎え、「企業における女性の活躍促進」をテーマに論議が行われました。お茶の水女子大学グローバルリーダーシップ研究所特別招聘教授のカレン・シャイア氏は日独両国における労働と雇用におけるジェンダー不平等をもたらす要因を、詳細なデータを駆使して分析し、ボッシュ株式会社取締役副社長の森下典子氏は、同社が実施した女性エンジニアの管理職育成のワークショップなど、多様性を重視した働きやすい職場作りの取組を報告しました。

3 Info

国立女性教育会館（NWEC）

「地域における男女共同参画推進リーダー研修＜女性関連施設・地方自治体・団体＞」募集

地域における男女共同参画の現状と課題を把握し、課題解決に向けた具体的な取組のあり方を探ります。

国の施策の最新情報、テーマ別分科会・コース別分科会、参加者同士によるネットワークづくりを通じて、知識・企画力・実践力を養う高度で専門的な研修です。

期日：平成30年5月23日（水）～25日（金）[2泊3日]

会場：NWEC（埼玉県比企郡嵐山町菅谷728）

詳細、申込は<https://www.nwec.jp>をご覧ください。

4 Info

国立女性教育会館（NWEC）

特別展示『女性の歩みを受け継ぐ』
＋ミニ展示『明治時代の女子教育』

NWECの女性アーカイブセンターが今年で開設10周年を迎えることを記念して特別展示を開催中です。

女性団体や個人の手による貴重な資料を通じて、女性たちが活動してきた様子や、それを今の女性たちがどのように受け継いでいるかを感じ取っていただければ幸いです。

また、政府による「明治150年」関連事業として、ミニ展示「明治時代の女子教育」を同時開催します。

期間：1月26日（金）～9月9日（日）

9時～19時（休館日をのぞく）

会場：NWECアーカイブセンター展示室（本館1階）

料金：無料

詳細は<https://www.nwec.jp/event/archivecenter/tenji2018.html>をご覧ください。

男女共同参画センターだより

News From Center

茨城県女性プラザ男女共同参画支援室

茨城県女性プラザ男女共同参画支援室は、就労や地域・団体活動など新しい可能性にチャレンジしようとする方への情報提供や相談助言、男女共同参画や女性のキャリア等に関する相談、地域・団体活動への支援等を行うための拠点として、平成17年に設置されました。

男女共同参画の普及啓発と様々な分野へのチャレンジを目的として実施している「チャレン

ジ支援セミナー」では、起業や再就職、キャリアアップ等の就労支援のほか、地域コミュニティビジネスや防災等の地域活動へのチャレンジ、ワーク・ライフ・

バランスやライフデザイン等をテーマとする講座を年4回程度開催しています。身近なテーマから生活を考える講座が人気で、参加者から好評を得ています。

相談業務では、再就職や起業、NPOの立ち上げ等に関する「チャレンジ相談」、家族や夫婦、職場、地域等に関する悩み等についての「女性のための総合相談」、

働く女性を対象にした仕事やライフイベントとの両立等についての「キャリア相談」を設けています。心の相談の増加に伴い、相談者の気持ちに寄り添って傾聴する姿勢を大切にしています。また、特別相談として月1回の女性弁護士による無料法律相談を行っています。

その他、会議室や図書・DVDなどの貸出等を行っています。



施設外観



チャレンジ支援セミナー

これらの活動については、年4回発行している「女性プラザ男女共同参画支援室だより」に、男女共同参画の推進活動を行っている女性団体・グループの紹介等と併せて掲

載しているほか、ホームページやFacebookを活用した広報にも努めています。

茨城県では、平成28年度に「茨城県男女共同参画基本計画(第3次)～人が変わる組織が変わる社会が変わる～」を策定しました。本計画のもと、あらゆる分野において女性の活躍が進むよう取り組んでまいります。

編集後記

今年の冬はアツい!!。「エ〜!」「今年はメチャ寒いだろ!」と思われる方、勘違いしないでください。平昌(ピョンチャン)オリンピックにおける日本選手の活躍により日本列島全体が熱くなりました。メダル獲得数も過去最高で金銀銅合わせて13個ものメダルを獲得しました。選手の皆さん感動をありがとうございました。今月9日からはパラリンピックも始まっています。みなさん、引き続き、熱い応援をよろしくお願いします。

さて、男女共同参画週間のキャッチフレーズに多数のご応募をいただきありがとうございました。これから行う選考に向けて、どんな作品があるか非常に楽しみです。入賞作品は5月号(5月10日発行)でご紹介させていただきます。

(編集デスク K.H)

【お詫び】

2月号の連載/その1のタイトルの副題に誤りがありました。正しくは、「女性活躍推進とダイバーシティ」です。お詫びいたします。

【3・4月号表紙】

男性が楽しく料理に参加している姿がイメージできるような、明るいデザインにしました。

デザイン/山浦恵梨子

Kyodo-Sankaku

月刊総合情報誌
「共同参画」3・4月号
http://www.gender.go.jp
https://www.facebook.com/danjokyodosankaku/
第110号●2018年3月10日発行
編集・発行●内閣府
〒100-8914
東京都千代田区永田町1-6-1
内閣府男女共同参画局総務課
電話●03-5253-2111 (代)
印刷●日昇印刷株式会社



(■日本人 ■外国人)



このような
事例が
あります!

SNSで知り合った家出中の日本人少女らをマンションに居住させ、根拠のない「罰金」を科して客と売春させ、その代金を搾取。

「日本に無料で観光に行ける」などの甘言を信じて来日したタイ人女性らに、渡航費用と称していわれのない借金を負わせ、返済のため売春を強制し、その代金を搾取。

フィリピン人女性らに偽装結婚をさせて来日させ、その後旅券を取り上げて店のホステスとして働かせ、その報酬を搾取。

平成29年度 人身取引対策ポスター